

平成27年度 第1回 秋田市公立大学法人評価委員会 会議録

1 日 時 平成27年7月7日（火） 13：30～15：00

2 会 場 西部市民サービスセンター 3階 大会議室

3 出席者

【委員】

野田 敏明 委員長

鑑 隆千代 委員

福士 文友 委員

三浦 潔 委員

※野見山浩平委員は欠席

【公立大学法人秋田公立美術大学】

霜鳥理事長兼学長、岩本副理事長、渡邊理事兼副学長、富樫理事兼事務局長

近藤総務課長、八木橋学生課長、北嶋企画課長、藤原課長補佐、小川副参事、伊藤課長

補佐、栗林課長補佐、水澤主席主査、加賀谷主任

【評価委員会事務局】

佐々木企画財政部次長、納谷企画調整課参事、加藤主席主査

4 議 事

開 会

事務局 ただいまから平成27年度第1回「秋田市公立大学法人評価委員会」を開会する。

5人中4人のご出席をいただき、本委員会条例に規定されている定足数を満たしていることを報告する。

始めに設置者を代表して秋田市企画財政部次長の佐々木からご挨拶を申し上げます。

佐々木次長 (次長挨拶)

事務局 議事の前に、委員長を選出する。委員の任期は2年であり、昨年度改選したことから再度委員長を選出したい。自薦又は推薦があれば、お知らせして欲しい。

委員 引き続き、野田委員に委員長をお願いしたい。

事務局 野田委員の推薦があったが、その他に意見はないか。（「なし」との声有）ないようなので、野田委員を委員長に推薦したいがいかがか。（「異議なし」との声有）それでは、野田委員を委員長に選出することとする。

それでは議事に入る。会議の進行を、野田委員長にお願いする。

委員長

(挨拶) 次第にしたがって議事を進める。

業務実績の評価、財務諸表についての意見を聴取するが、実績報告と財務諸表は、今日の審議結果を評価委員会事務局で集約し、8月の第2回評価委員会で確認できるように進めていきたい。

議事に入る前に、霜鳥理事長兼学長からご挨拶をいただきたい。

霜鳥理事長

(理事長挨拶)

委員長

それでは平成26年度の業務実績について審議する。今回の評価対象は26年度に業務がなかった項目や実績報告書の最後のページにある予算、短期借入金限度額などの実績評価になじまない項目を除いた122項目となる。それでは、公立大学法人から平成26年度業務実績について簡潔に説明をお願いします。

### 【議事(1)】

#### 公立大学法人秋田公立美術大学平成26年度業務実績について

公立大学法人

(「区分別評価結果概要」と「平成26年度事業報告書」について説明)

野田委員長

それでは、各委員から事前に聴取した全78項目のうち、特に確認が必要な意見、質問の審議を進めていきたい。

事前聴取の対応状況について、大学から説明をお願いします。

公立大学法人

事前聴取した意見、質問等について主な対応状況を説明する。

#### 連番1

年度計画記載の「デザイン史特講」「素材と表現」の専門共通科目の記載内容については、年度計画との整合を図るため、記載を改める。

#### 連番2

わかりやすい記載内容にすべきとの意見については、記載を改める。

#### 連番5

学内公募でそれぞれ応募数が異なる理由としては、ロゴマークやキャラクターの公募は、アイデアがあればパソコンを使い短期間で制作可能なため応募数が多くなり、イラストは画材の準備と制作期間が長くなるため、少なくなるからである。

また、平成25年度は、新屋地区の活性化に向けたまちづくりプランの作成や地域の課題や地域資源の活用方法に関する意見発表等が行われていたが、平成26年度はこのような活動は無かったのかについては、その旨追加する。

自己評価を昨年度のⅣからⅢにした理由は、年度計画を達成しているものの、指標がないこと、他大学と比較して十分に上回っているかを考慮しⅢとした。

**連番 6**

ホームページのアクセス数が平成25年度と同数となっているので、訂正する。

また、大学案内の作成部数や学生募集要項の送付数について、前年度のデータの記載については、意見どおり追加する。

**連番 8**

受験生や高等学校教員による学校見学でのアンケートの有無については実施済みであり、広報活動の検討やオープンキャンパスの内容の見直しなどに活用した。

**連番 9**

入学動機等の分析結果としては、教員や親など、周囲の人からの勧めで本学を知る機会が多いことから、学生募集は進学相談会への参加や高校、美術予備校の訪問を中心に考えている。

**連番10**

高大連携授業の回数や参加者数について、昨年度のデータを追加する。

**連番21**

計画では「計画を立案する」までであったのが、「推進」したのだからⅣでも良いのではないかについては、教育実習は、年度計画どおり計画を立案し、それに基づいて予定どおり進めたため、Ⅲとした。

**連番25**

年度計画に「制度設計を行う」とあるが業務実績に「運用を開始した」とあるので、目標を上回っており、Ⅳ評価ではないかについては、「授業欠席学生連絡票」を用いた欠席学生に対する学生指導は、運用を開始し、年度計画より上回っているが、指標がないこと、他大学と比較して格段に上回っていると判断出来ないため、Ⅲとした。

**連番32**

ポートフォリオの注釈意見については、要望を受け追加する。

**連番34**

受講生アンケートの記載意見については、感想の一部を追加する。

また、自己評価を昨年度のⅣからⅢにした理由については、平成25年度は、フィールドワークの実施や長期制作現場を学生に体験させるなど、様々なことを行っているためⅣと評価したが、平成26年度は、講義等やワークショップが中心であるため、Ⅳとは判断できず、Ⅲとした。

**連番37**

客員教授候補者の具体的な名前は、決定した候補者は公表する。

また、現在、交渉中の候補者は公表を控えたい（決定後、公表する）。

#### 連番41

図書施設整備を検討するという計画に対して、立案まで行ったためⅣではないかとの意見については、年度計画を上回っているものの、他大学と比較して十分に上回っているかを考慮し、Ⅲとした。

#### 連番43

自己評価を昨年度のⅢからⅡにした理由は、平成25年度年度計画では「評価システムの構築を進める」という年度目標に対し、ワーキンググループを設置し、報告書を取りまとめたことからⅢとした。これに対し、平成26年度年度計画では、中期計画上【短期】ということから平成26年度までに制度実施すべきところ、実施に至らなかったため、Ⅱとした。

#### 連番44

前期4.4.後期4.5で平均が4.4となる理由は、小数点2ケタを切り捨て4.4とした。

#### 連番54

相当数の会社を、教職員が直接訪問できたかについては、就職支援スタッフを中心に、個別に直接企業訪問を実施したのが232社で、「その他」に記載している286社は、合同企業説明会における企業との面談数であり、合わせて518社との接触を図った。

#### 連番56

評価指標にある進路決定率について、平成25年度に3年次編入し、今年卒業した学生8名の実績については、進学1名、就職7名で、進路決定率は100%だったことを、実績として記載する。

#### 連番58

秋田駅中央改札口付近での市街地木質化実証モデル事業の記載については、意見どおり追加する。

#### 連番59

自己評価を昨年度のⅣからⅢにした理由は、昨年度は16件申請で4件採択に対し、今年度は12件申請2件採択だったことから今回Ⅲとして自己評価した。

また、教員の申請状況だが、教員40人のうち10人、うち25年度は3人、26年度は7人が申請している。

#### 連番60

自己評価を昨年度のⅣからⅢにした理由は、美術系大学として作品発表は通常の行為であるためⅢとしたが、昨年度の作品発表17件入賞1件と比較し、今年度は作品発表22件、入賞5件で明らかに上回っているため

IVに修正する。

#### 連番61

実施計画がホームページ更新に対し、カツ展はワンランク上の実績となるのでIVで良いのではないかについては、指標がないこと、他大学と比較して十分に上回っているかを考慮し、Ⅲとした。

#### 連番65

挑戦的研究や大学の理念に基づく特定課題の研究に対して、奨励研究として加算する制度やその額が一般的かどうかは、判断は難しいが、研究費が一律だったものに4万円を加算した点は、教員のモチベーションや大学の積極姿勢を示すものと考えている。

なお、27年度は5万円としており、今後は予算を見据えながら検討する。

#### 連番68

計画が検討なのに、実施済なのでIVで良いのではないかについては、年度計画を上回っているものの、指標がないこと、他大学と比較して十分に上回っているかを考慮し、Ⅲとした。

#### 連番69

海外国際教育活動に関する要綱の内容によっては、短期在外研修制度の検討の域に達していないのであればⅡではないかについては、年度計画の短期在外研修を網羅する要綱を設置したことからⅢとした。

#### 連番72

計画が研修制度の導入検討で、実績が研修制度の実施なのでIVではないかについては、年度計画を上回っているものの、指標がないこと、他大学と比較して十分に上回っているかを考慮し、Ⅲとした。

#### 連番76

秋田市土産品プロジェクトにおいて、国際教養大の学生アイデアを秋田公立美術大学教員がパッケージデザインした旨を記載すべきについては、記載を追加する。

#### 連番81

教員展開催の計画が一施設に限定しているが、多くの会場で実施したのでIVではないかについては、教員展をより効果的に開催するという年度計画を十分に実施したとの判断指標がないため、Ⅲとした。

#### 連番84

5芸祭への参加計画を現実的な案に見直し、5芸大との交流など代替の取組がなくⅡではないかについては、5芸祭とは、京都市立芸術大学、金沢美術工芸大学の2大学によって行われた野球大会が原点となっているも

ので、毎年、年に1度行われる5校が1つの大学に集まり、芸術とスポーツのイベントが数日間行われているものである。

本学と五芸祭とは、まず、前学長の強い意志があり、昨年度メンバーである大学の学長に直接、加入について相談したところからスタートしており、本学においても昨年度検討を継続していたが、開学3年目であること、5芸祭開催のためには時間、費用、労力が必要であることなど課題があるため、現状では参加できる状況にないと判断した。なお、今年度は継続して調査し、将来的な課題としたい。

#### **連番88・89・90**

評価はどれもⅡだが、国際交流に関する計画には課題が多く、すぐに対応できるものとも思えない。中期計画残り3年を見据え各年度でどこまでやるかという年度計画を考えるべきではないかについては、計画や規程等の内容は完成していたが、27年度からの新体制の承認を要するため保留していた。協定締結校に関する調査は始めており、28年度には協定を締結したいと考えている。

#### **連番97**

自己評価を昨年度のⅢからⅡにした理由は、平成25年度年度計画では「評価システムの構築を進める」という年度目標に対し、ワーキンググループを設置し、報告書を取りまとめたことからⅢとした。

これに対し、平成26年度年度計画では、中期計画上【短期】ということから平成26年度までに制度実施すべきところ、実施に至らなかったため、Ⅱとした。

#### **連番114**

ペレットボイラーは、CO<sub>2</sub>削減に対応した設備なので、それを対象にした計画に移動又は重複記載してはどうかについては、省エネルギー、CO<sub>2</sub>削減については年度計画には記載されていないことから、記載のとおりとしたい。

#### **連番118**

本来、ヒトやマニュアルを整えるだけでは十分な業績とは言えず、防災訓練など、安全管理や危機管理の実効性を高めるための取組みが必要であり、計画段階でその旨盛り込むべきについては、平成28年度年度計画においては、防災訓練、安全管理、危機管理等の実効性を高めるための具体的な取組みを記載するよう努める。

また、26年度業務実績については、当該取組みの実績について加筆修正する。

#### **その他**

様々なアンケート調査が実施されているが、結果の概要の記載が無く、結果をどのように運営に活かしたかの記載も無いため、記載すべきとの意見については、34に実績としてアンケート内容を入れ、訂正する。

また、情報セキュリティについて、最近、他機関で深刻な被害が生じている事例を踏まえ、今後、さらに実効性を高めていくための取組みを検討すべきとの意見については、他機関で深刻な被害が生じていることは承知しており、情報収集や大学全体でのセキュリティ対策など学内情報システムの保守業者と連携を取り、対応可能な対策を行っている。

なお、今後はさらなる未知なウィルス等への対策と教職員への周知徹底に努める。

委員長

それでは、意見等があれば、連番を指定してお話しいただきたい。

委員

大学の対応状況は、概ねこれで良いと思う。重箱の隅を突くつもりはないが、公表することを意識して、専門的な用語などはわかりやすく記載してほしい。

連番8について、オープンキャンパスの参加者数が減っているが、原因は何か。

他の大学では、マスコミを利用して新聞広告やキャッチコピーなどでオープンキャンパスをアピールしているが、美大はどのように考えているのか。

公立大学法人

委員指摘にあるとおり、オープンキャンパスの参加者が平成25年度から25%減っているが、初年度は開学のご祝儀相場のような原理が働いたのではないか。一般的にはオープンキャンパスが減ると、志願者数が減る傾向にあるが、本学の場合、志願者は減っていない。そのため、現状の参加者数が落ち着いた数字ではないかと思っている。

オープンキャンパスは、大学を知ってもらい、その上で受験したり、来ていただいたことで本学進学を決心してもらえるような場であり、オープンキャンパスに参加した生徒、保護者から意見を聴いて広報戦略に生かしていきたい。

委員

大学に足を踏み入れて、美大に入りたいと気持ちを深めてもらいたい。そのために、オープンキャンパスに参加してもらおう取組を進めて欲しい。

公立大学法人

美術大学の特色だが、オープンキャンパスに参加した学生がデッサン教室を受講してもらおうことなどに取り組んでいるが、非常に効果が出ていると思うので、できるだけ続けていきたい。

なお、この大学には3分の2が全国から進学してくるので、家から遠い受験生はオープンキャンパスには参加しにくいと思う。しかし、来てもらうと、その気になる人がいるので、工夫したい。

委員

オープンキャンパス弾丸ツアーなどと銘打って、東京から無料バスを用意してどうか。美術大学でも、みんなが思いつかないような企画も考えて欲しい。

委員

全体的な話だが、アンケートについては、結果とその活用方法を記載す

べき。

オープンキャンパスにも絡むが、学生の応募動機などを分析して今後に生かすなど、マーケティングリサーチの部分が薄いと思う。

連番5、地域との関わりの部分で、地元新屋地区の活性化に関して、25年度は記載されていたが、26年度は記載がなかった。やっていないならば仕方ないが、やっているならば、どんどんアピールすべきである。

連番76の土産品開発プロジェクトについて、行政との関わりとともに国際教養大学との関わりもあったので、地域の横の連携事例として記載すべき。

連番58のJR秋田駅の木質化については、大きな業務実績であり、もっと前面に出して良い部分であるが、十分に出されていないので、積極的に出すべき。

公立大学法人

大学としてアピールすべき部分は、積極的に出していきたいので、意見を参考にしたい。

委員

連番56の進路決定率について、昨年度は編入した学生8人が対象だったが、今年はどうなるのか。いつから進路指導が本格化するか。

公立大学法人

今年は編入した4年生が10人のみである。そのため、一期生100人の就職活動は来年度から本格化する。就職活動は協定により来年3月からになるが、それ以前にキャリアデザインの授業などで学生に進路をアピールしている。まだ3年生なのでピンとこないようだが、それでも今からやっておかないと、咄嗟にはできない。

また、インターンシップなどを通じて、実社会を見ることが大事なのでこの夏から進めていきたいと思っている。

委員

一般の大学の学生と、美術大学の学生とは就職に関するイメージ、思いが違うと思うが、進路決定率が8分の8や10分の10の時は良いが、100分の何とかになった時のため、今のうちに対策すべき。

公立大学法人

キャリアデザインの1、2という授業があるが、そこでは美術系の勉強をした学生が、どういう仕事をしているかについて、外部講師を多く招集して、学生のヒントになるような授業を進めている。

委員

なるべく多くの学生が、秋田に残って欲しいと思う。

公立大学法人

今年の卒業生8人のうち、県外から来た学生2人が県内に就職した。この割合が続き、県内人口が増えてほしいと思う。

公立大学法人

県外から来た学生が、秋田が良いと判断して県内に就職したことは、大学生活を通じた結果なので良いことだと思う。

委員

公立大学の場合は税金を使って運営しており、県外からの入学や県内へ

の就職を問われる。

ところで、学生がまちに出たり、地元住民とふれあいがあったり、色々な交流が進んでいるが、もっともっと外に出て欲しい。

市の方でも、建設中の新庁舎の仮囲いに学生の絵を飾るなど、市の施設を活用し、学生が努力している姿に触れる機会を確保してほしい。

全国的な大会やイベントは、中通のエリアなかいちを中心に行われるので、エリアなかいちや仲小路に現代アートを展示したりして、目に触れる機会を増やして欲しい。

公立大学法人

にぎわい交流館Auでヒロシマ原爆展を市で開催しているが、市と連携し原爆展のポスターを本学学生が制作した。授業の一環で学生が作ったが、全作品を会場に展示している。

関連して、秋田駅前のフォンテAKITAでは、第一線のイラストレーターが制作した広島原爆や平和に関するポスター展を同時開催しているし、学生のポスターも展示している。今後も、秋田市と連携して駅前での活動に取り組んでいきたい。

公立大学法人

もう少し、まちなかにアピールできる取組があれば良いと思っている。私は4月から秋田に来たが、秋田駅前の秋田杉のバス停も本学教員が関与している。バス停は、駅から降りた人が秋田の第一印象となる対象といえる。また、市役所の新庁舎工事に関連して、何かあっても良いと思う。

夏には、学生が大森山動物園とタイアップする取組もあるし、まちなかに、美大が関わっているという雰囲気を作るよう考えていく。

公立大学法人

実績にはないが、新屋竿燈会に本学学生が所属しており、今年も関わっていく予定である。

委員長

田沢湖雪祭りイベントで雪像を飾っていたが、3分の2以上は美大生が作ったものだった。何年も前から行っているようで、定着しているような印象がある。

公立大学法人

美大生以外にも、東京の大学の学生も一緒にコンペ形式で実施しているが、美大の学生の雪像も評判が良かった。

委員長

美大は、自身の活動を発信する材料がたくさんあり、活用すべき。

公立大学法人

今は1年から3年まで300人しかいないが、来年度また増加していくので、がんばっていききたい。

委員

県内の景気が厳しい状況で、県の方でスポーツ文化部を作って、スポーツや文化などを盛り上げようとしている。秋田では、芸術なり文化の分野で勢いを付ける要素がある。例えば、美大生が関わっているKAMIKOANIプロジェクトは、たくさんの参加者が集まっており、このような取り組みを進めて欲しい。

公立大学法人 新聞でも展覧会で入選すると、秋田美大何年生の誰それと取り上げてくれており、大変ありがたいと思っている。

委員長 今日の意見を評価委員会事務局で集約し、次回の委員会までにまとめてもらいたい。

**【議事(2)】 秋田公立美術大学平成26年度財務諸表について**

委員長 大学から概要を説明して欲しい。

公立大学法人 (概要説明)

委員 当期純利益45,303,790円は、どのように評価すべきか。使い切れなかったのが余ったのか。使い切った方が良かったものなのか。

委員長 財務諸表は企業と同じように、表示しなければならないルールにはあるが、利益という発想は大学にはなじまない。

剰余金は、基本的に赤字にならないように大学の努力の結果で生じたものである。市が承認すれば、目的積立金として研究開発資金に回るものである。そのため、剰余金は設置者に吸い上げられる性格ではない。

公立大学法人 国立大学でも、委員が話したとおり、剰余が出たら翌年度以降に利用できる仕組みになっている。本学の場合は設置の途上であり、来年度全学年がそろうため、ある程度懐が温かい方が色々な活動ができる。

委員 財務諸表は、一般の人が見てもよくわからない。そのため、一番わかりやすいキャッシュ・フロー計算書に絞って見る方法がある。

1の業務活動によるキャッシュ・フローは、一般企業の営業活動の成果つまり稼ぎのことである。要は業務活動の範囲で、2の投資と、3のリース債務の返済がまかなえており、最終的に資金が8千万円程度増えているので、キャッシュ・フローを見る限り健全だと言える。

ただ、大学の財務諸表の特徴としては、8ページの重要な非資金取引に記載しているとおり、固定資産の現物出資や図書の現物寄附など、現金の支出を伴わない資産の増加がある。これは、現金が出ていかないのに、キャッシュ・フロー計算書には表示されないが、その額を抜いた部分で概ね大学の運営が回っているので、問題ない。

また、多少の繰越金がないと、次前度当初の運営資金に回せないため、これくらいの金額は必要。

さらに、あらかじめ配付された他の大学と比較した経営分析によれば、平均的な水準であるので、特に問題ない。

公立大学法人 美術大学の収益に対する剰余金の割合は4.2%だが、県立大学は4.7%なので、他大学と同じような比率ではないか。

委員 損益計算書の収支差と、決算報告書の収支差との違いは何か。

公立大学法人 損益計算書は減価償却費等込みの企業会計方式、決算報告書は減価償却費等なしの官庁会計方式であり、その違いが収支差に現れている。

委員長 財務諸表等については、特に意見はないようなので、当委員会では「意見なし」として決定する。本日の議題は全て終了したので、事務局に進行を引継ぎする。

事務局 第2回評価委員会は、事前にお知らせしたとおり8月7日（金）の10時00分から11時30分まで、秋田市役所で開催する。

議題は、今日の意見をもとに、業務実績評価書の審議を予定している。

また、秋田公立美術大学大学院基本構想の提出を受け、大学院設置に必要な中期目標および中期計画の変更についてご審議いただくことも考えている。

今回の会議録は、まとめ次第、電子メールで送付するので、確認してほしい。

閉会